

九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科(学校推薦型選抜 公募制)

『多くの人に支えられて』__野球部

10月に入る前から小論文の練習を始めました。最初は上手く書けず、指導して下さった先生には、何を書いているのかわからないと何度も指摘されました。けれども、回数を重ねていくうちに少しずつではあるが、先生からも良くなってきているというお言葉をかけていただけるようになりました。そのため何度も回数を重ねていくことがとても大切だと思いました。小論文はなるべく早く対策をすると思います。面接練習は本番の2週間前から毎日対策をしました。最初は言葉遣い、座っているときの姿勢、目線、歩き方などの細かいところまで指摘されて、とても苦労しましたが、毎日練習を繰り返していくに連れて、意識しなくてもしっかりとできるようになりました。また志望動機以外にも様々な質問の練習をしてくれるため、本番の面接で、予想外な質問が来ても動揺することなく答えることができました。アドバイスとしては、普段の日常生活から姿勢、言葉遣い、態度や歩き方などに注意しておくことで、練習でも、本番でも緊張することなく答えられると思います。

令和健康科学大学 リハビリテーション学部 作業療法学科(学校推薦型選抜 指定校)

『進路を決める上で大切なこと』__ハンドメイド部

私は、志望校を決める上で大切なことは、将来どのような自分になりたいかを1年生のうちから考えることだと思います。その上で、何が必要かを考え、それに合った大学や専門学校を探すと思います。例えば、私は将来誰かの役に立ちたいと考えていました。そこで興味があった医療という職について調べ、作業療法士という仕事を知りました。そして、調べていくうちに、患者さんに信頼され気軽に話しかけることのできる身近な作業療法士になりたいと考えるようになり、高いコミュニケーション能力や深い知識や技術が身につけられる学校を、パンフレットを取り寄せたり、気になる学校のオープンキャンパスに参加したりして探しました。以上のことから、1年次の早いうちから将来のことを考え、将来の夢や目標を持つことが大切だと考えました。そうすることで、受験への意欲が出てくると思います。

記念八幡看護専門学校(学校推薦型選抜 指定校)

『面接のアドバイス』__バレーボール部

指定校推薦は、小論文・面接が受験科目であるところが多いので、何回も練習することをおすすめします。面接では、特に志望動機では自分がなぜその学校に行きたいのか、専門学校であればなぜその職業につきたいかというきっかけを入れるとより伝わりやすいと思います。出願書から聞かれることが多いので、出願書に何を書いたかを覚えておいたほうがいいです。過去に聞かれたことを中心に考えると本番では答えやすいと思います。集団面接・個人面接などの人数が最初から決まっているため、練習の時も自分と同じ人数の人と面接練習するとより実践に近い練習ができます。小論文は、過去問を何回も繰り返し書いて書き方を覚えるとやりやすいと思います。自分が将来目指している職業やその学校でやりたいことを最終的につなげられたらより良いと思います。小論文と面接は、どちらも緊張してしまうと、自分のしてきたことが発揮できなくなるので、リラックスして頑張ってください。

九州医療スポーツ専門学校 理学療法学科(学校推薦型選抜 公募制)

『頑張ったこと』__弓道部

私が志望する学校に合格するために頑張ったことは2つあります。1つ目は学期ごとに行われる中間考査・期末考査です。私は苦手な教科が多いので、テスト前は夜遅くまで起きて勉強しました。きつくて何度も諦めようと思いましたが最後までやり遂げることが出来ました。そのお陰で、評定が推薦基準を超えることができ、受験ができました。2つ目は部活動です。私は弓道部に所属していました。活動を続ける中で、うまくいかないことが多く、試合の結果も思うようにいかないときもありました。人間関係にも悩み、何度も退部を考えましたが、的に矢が当たった嬉しさが忘れることが出来ず、最後まで取り組むことが出来ました。その結果、審査では初段を獲得することができました。弓道を通じて、最後まで諦めない力を身につけたことが今回の入試に活かせたと思いました。